授業計画（シラバス）

科目名	進路研究Ⅰ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
時間数	28 時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。			
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 ・期末試験 上記成績評価を100点満点で点数化して総合評価する			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	講師紹介　1-1　これからどう生きるのか(宿題として視聴)
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り　1-2　一生でどのくらい稼げるのか
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編)　身だしなみ
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い
	5	職業を知る	2-2　職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします
	6	情報収集、企業研究、資料請求　1	2-2(実践編)　業界マップの理解
	7	情報収集、企業研究、資料請求　2	2-3　業界ごとに必要な仕事内容を理解する
	8	情報収集、企業研究、資料請求　3	2-3(実践編)　業界ごとに必要な仕事内容を理解する
	9	自分自身を知る　自分史の作成　1	3-4から3-6-2　・3-4自己PRのネタを探す
	10	自分自身を知る　自分史の作成　2	3-4から3-6-2　・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)
	11	自分自身を知る　自分史の作成　3	3-4から3-6-2　・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)
	12	自分自身を知る　自分史の作成　4	3-4から3-6-2　・3-5自己PRの骨格を作る
	13	自分自身を知る　自分史の作成　5	3-4から3-6-2　・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)
	14	期末試験（一般常識）	自己PRの確認は必須　時間があれば一般常識など
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	進路研究Ⅰ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年		
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
時間数	28 時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。			
評価方法 評価基準	・出席 ・授業態度 ・期末試験 上記成績評価を100点満点で点数化して総合評価する			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	志望動機の作り方　1	3-7　業界、会社にあった動機作り
	2	志望動機の作り方　2	3-7(実践編)　業界、会社にあった動機作り
	3	制作書類　1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート
	4	制作書類　2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状
	5	制作書類　3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書
	6	制作書類　4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成
	7	企業訪問	5-1,5-2
	8	就職試験のマナー　1	5-2~5-3(実践編)　入退室
	9	就職試験のマナー　2	5-2~5-3(実践編)　面接試験対策1
	10	就職試験のマナー　3	5-2~5-3(実践編)　面接試験対策2
	11	筆記試験対策　1	5-5,5-5(実践編)　筆記試験について、種類や方法を知る
	12	筆記試験対策　2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)
	13	筆記試験対策　3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)
	14	期末試験（履歴書）	履歴書提出
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	クロスオーバーゼミⅠ		指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
時間数	56 時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・様々な学科教員から、各分野の基本的な知識技術を学ぶ。 ・前期では、目標達成ポイントとする。 ・後期では、目標達成ポイントとする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	なし			
授業外学習の方法	なし			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション口	科目受講の注意点の説明
	2	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	3	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	4	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	5	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	6	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	7	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	8	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	9	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	10	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	クロスオーバーゼミⅠ		指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
時間数	56 時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・様々な学科教員から、各分野の基本的な知識技術を学ぶ。 ・前期では、目標達成ポイントとする。 ・後期では、目標達成ポイントとする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	なし			
授業外学習の方法	なし			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	2	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	3	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	4	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	5	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	6	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	7	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	8	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	9	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	デジタルソフト実習Ⅰ		指導担当者名	丸子　遥華
実務経験	広告代理店、デザイン制作業務に3年従事		実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・フォトショップ、イラストレーターの使用技術の習得 ・フォトショップ検定初級を取得する（12月実施予定） ・イラストレーター検定初級を取得する(8月実施予定）			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	Machintosh PC,Illustratorクイックマスター CC（Win/Mac）対応,Photoshopクイックマスター CC（Win/Mac）対応			
授業外学習の方法	・テキストを使っての事前予習　・テキストを使っての実技練習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	Illustrator検定対策（スタンダード）	クイックマスターIllustratorの基礎知識／インターフェース・ツール・パネル
	2	Illustrator検定対策（スタンダード）	クイックマスターIllustratorの基礎知識／アートワーク・アートボードナビゲーター・ガイド・環境設定
	3	Illustrator検定対策（スタンダード）	クイックマスターIllustratorの基本操作／オブジェクトの設定と描画
	4	Illustrator検定対策（スタンダード）	クイックマスターIllustratorの基本操作／編集操作（CP・前後関係・グループ化・移動）
	5	Illustrator検定対策（スタンダード）	クイックマスターIllustratorの基本操作／カラー設定・レイヤーオブジェクトの組み合わせ
	6	Illustrator検定対策（スタンダード）	クイックマスターIllustratorの基本操作／文字の作成・文字関連の機能
	7	Illustrator検定対策（スタンダード）	クイックマスターIllustratorの基本操作／パスの基本的な描画と編集
	8	Illustrator検定対策（スタンダード）	クイックマスターIllustratorの応用操作／線とアピアランス
	9	Illustrator検定対策（スタンダード）	クイックマスターIllustratorの応用操作／レイアウトの補助機能
	10	Illustrator検定対策（スタンダード）	クイックマスターIllustratorの応用操作／グラデーション・スウォッチ・パターン
	11	過去問題	スタンダード模擬問題-1 解説
	12	過去問題	スタンダード模擬問題-2 解説
	13	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施
	14	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	デジタルソフト実習Ⅰ		指導担当者名	丸子　遥華
実務経験	広告代理店、デザイン制作業務に3年従事		実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・フォトショップ、イラストレーターの使用技術の習得 ・フォトショップ検定初級を取得する（12月実施予定） ・イラストレーター検定初級を取得する(8月実施予定）			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	Machintosh PC,Illustratorクイックマスター CC（Win/Mac）対応,Photoshopクイックマスター CC（Win/Mac）対応			
授業外学習の方法	・テキストを使っての事前予習　・テキストを使っての実技練習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	Photoshop検定対策（スタンダード）	クイックマスターPhotoshopの基礎知識／インターフェース・ドキュメントウィンドウ・ツール・パネル
	2	Photoshop検定対策（スタンダード）	クイックマスターPhotoshopの基礎知識／画面表示・色の選択・環境設定
	3	Photoshop検定対策（スタンダード）	クイックマスターPhotoshopの基本操作／選択ツール・範囲の読み込み
	4	Photoshop検定対策（スタンダード）	クイックマスターPhotoshopの基本操作／画像解像度とサイズトリミング
	5	Photoshop検定対策（スタンダード）	クイックマスターPhotoshopの基本操作／変形・カラーモード色調補正
	6	Photoshop検定対策（スタンダード）	クイックマスターPhotoshopの基本操作／ペイント・レタッチ・レイヤーの操作
	7	Photoshop検定対策（スタンダード）	クイックマスターPhotoshopの基本操作／パス・切抜・シェイプ・フィルター・テキストの入力について
	8	Photoshop検定対策（スタンダード）	クイックマスターPhotoshopの応用操作／コンテンツ制作・ロゴ制作／カスタムシェイプ
	9	Photoshop検定対策（スタンダード）	クイックマスターPhotoshopの応用操作／コンテンツ制作・フォトカード／アクション
	10	Photoshop検定対策（スタンダード）	クイックマスターPhotoshopの応用操作／Webページの制作
	11	過去問題	スタンダード模擬問題-1 解説
	12	過去問題	スタンダード模擬問題-2 解説
	13	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施
	14	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	コミックイラスト実習Ⅰ		指導担当者名	大坂　美智子
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	イラスト投稿雑誌「SSスモールエス」、また「季刊エス」へ投稿し、掲載を狙い、自分自身を売り込んでいく。期日までに作品を仕上げる経験を重ねることで、製作スピードの把握、作品制作のプロセスを身に付ける。□			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	Machintosh PC・スマートフォン・iPad・アップルペンシル・ペンタブレット他画材			
授業外学習の方法	課題作品の制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	授業説明	授業内容・成績評価方法・投稿する雑誌説明
	2	イラスト制作、個別指導	一人ずつ面談を行い、各自の目標やイラストの傾向を絞っていく
	3	傾向対策	ss掲載作品の分析
	4	イラスト制作①	投稿用イラストの下書きチェック
	5	イラスト制作①	制作及び投稿
	6	傾向対策	雑誌掲載作品の分析　自分のオリジナリティの方向性を検討する
	7	イラスト制作②	キャラクターの表情に特化したイラスト投稿　下書き
	8	イラスト制作②	制作及び投稿
	9	イラスト制作③	ss掲載作品の分析　自身の絵柄の分析
	10	イラスト制作③	作品投稿
	11	期末テスト	投稿履歴確認と投稿作品の最終提出日
	12	期末振り返り	前期振り返りと・夏休み課題発表
	13	期末試験フィードバック	
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	コミックイラスト実習Ⅰ		指導担当者名	大坂　美智子
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	イラスト投稿雑誌「SSスモールエス」、また「季刊エス」へ投稿し、掲載を狙い、自分自身を売り込んでいく。期日までに作品を仕上げる経験を重ねることで、製作スピードの把握、作品制作のプロセスを身に付ける。□			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	Machintosh PC・スマートフォン・iPad・アップルペンシル・ペンタブレット他画材			
授業外学習の方法	課題作品の制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	授業説明	授業内容・成績評価方法・投稿する雑誌説明
	2	個別確認	一人ずつ面談を行い、各自の目標やイラストの傾向を絞っていく
	3	イラスト制作⑤	投稿イラストの下書きチェック
	4	イラスト制作⑤	オリジナル表現の方向性の確認
	5	イラスト制作⑤	制作及び投稿
	6	イラスト制作⑥	制作及び投稿
	7	イラスト制作⑥	オリジナル表現のイラスト制作完成、発表、投稿
	8	イラスト制作⑧	制作及び投稿
	9	イラスト制作⑧	季刊s、ssテーマイラストの個別添削
	10	後期末考査	季刊s、ssテーマイラストの完成、投稿確認
	11	期末試験フェードバック	
	12	期末試験フェードバック	
	13	期末試験フェードバック	
	14	期末試験フェードバック	
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	クロッキーデッサン実習Ⅰ		指導担当者名	丸山　悦代
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	基礎的な描写力の向上と観察力を重点的に養う。更に作品に対する向き合い方（集中力、執着心、リテイク、フィードバック）を学ばせ、今後の作品制作に活かせる姿勢を身に付けさせる。□			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	スケッチブック、画用紙、鉛筆・モチーフ等、デッサンの実習に必要と思われるもの全般			
授業外学習の方法	デッサンの練習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション・手のデッサン	各生徒の自己紹介や講師紹介、授業の一年の流れ等の説明。画材準備後、自らの手を描いてみる。
	2	幾何石膏体	モチーフを計測する。円柱や立方体等の石膏立体を描く。
	3	風景スケッチ	学校エリア内を散策し、スケッチする。
	4	静物①（マグカップ）	各自、マグカップを持参。単純な日用品を描く。
	5	静物②（野菜or果物）	各自、野菜か果物を1個持参。自然物を描く。
	6	静物③（お椀とお皿）	各自、円の構造体の日用品を描く。
	7	静物④（箱）	各自、500mℓの紙パックジュースを持参。ロゴ入りで描く。
	8	静物⑤（チョコレート）	各自、チョコレートを持参。ケースごと、ロゴ入りで描く。
	9	静物⑥（バッグ、リュック）	各自、自身のバッグもしくはリュックを描く。
	10	静物⑦(中身入りペットボトル）	各自、ペットボトルを持参。液体と固形をデッサンで表現する
	11	期末考査対象課題：自画像	喜・怒・哀・楽の中から表情をひとつ選び、自画像を描く。各自、鏡を持参する。2週連続の課題。
	12	期末考査対象課題：自画像	喜・怒・哀・楽の中から表情をひとつ選び、自画像を描く。各自、鏡を持参する。2週連続の課題。
	13	発表	作品発表
	14	まとめ	デッサン法の復習、まとめ
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	クロッキーデッサン実習Ⅰ		指導担当者名	丸山　悦代
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	基礎的な描写力の向上と観察力を重点的に養う。更に作品に対する向き合い方（集中力、執着心、リテイク、フィードバック）を学ばせ、今後の作品制作に活かせる姿勢を身に付けさせる。□			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	スケッチブック、画用紙、鉛筆・モチーフ等、デッサンの実習に必要と思われるもの全般			
授業外学習の方法	デッサンの練習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	スプーンを持った手	前期デッサンの復習と振り返りをする。
	2	人物クロッキー①	クロッキーによって人体のプロポーションやポージングの確認をする。生徒が交代でモデルをする。
	3	人物クロッキー②	クロッキーによって人体のプロポーションやポージングの確認をする。生徒が交代でモデルをする。
	4	期末考査対象課題：自画像	喜・怒・哀・楽の中から表情をひとつ選び、自画像を描く。各自、鏡を持参する。3週連続の課題。
	5	期末考査対象課題：自画像	喜・怒・哀・楽の中から表情をひとつ選び、自画像を描く。各自、鏡を持参する。3週連続の課題。
	6	期末考査対象課題：自画像	喜・怒・哀・楽の中から表情をひとつ選び、自画像を描く。各自、鏡を持参する。3週連続の課題。
	7	期末考査対象課題：自画像	喜・怒・哀・楽の中から表情をひとつ選び、自画像を描く。各自、鏡を持参する。3週連続の課題。
	8	期末考査対象課題：自画像	作品発表
	9	発表	折り畳みの鏡と手袋を各自持参し、好きなように構成しデッサンする。2週連続の課題。
	10	期末考査対象課題：卓上静物①	折り畳みの鏡と手袋を各自持参し、好きなように構成しデッサンする。2週連続の課題。
	11	期末考査対象課題：卓上静物①	自宅にある静物を各自持参し、好きなように構成しデッサンする。2週連続の課題。
	12	期末考査対象課題：卓上静物②	自宅にある静物を各自持参し、好きなように構成しデッサンする。2週連続の課題。
	13	期末考査対象課題：卓上静物②	自宅にある静物を各自持参し、好きなように構成しデッサンする。3週連続の課題。
	14	発表	作品発表
	15	まとめ	就職用ポートフォリオに向けてのブラシュアップ
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	背景制作実習Ⅰ		指導担当者名	志村　早織
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	背景を、正確な遠近法を用いて作画できる技術を習得する 一点透視図法、二点透視図法を学び、室内から屋外まで描画できる力を養う			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	各種画材			
授業外学習の方法	課題制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	授業目的、内容、背景の重要性
	2	一点透視図法	一点透視図法の基本
	3	一点透視図法	構図　人物の関係性
	4	一点透視図法	一点透視図法を用いた背景作画
	5	一点透視図法	一点透視図法を用いた背景作画
	6	二点透視図法	二点透視図法の基本
	7	二点透視図法	構図　人物の関係性
	8	二点透視図法	二点透視図法を用いた背景作画
	9	二点透視図法	二点透視図法を用いた背景作画
	10	三点透視図法	三点透視図法の基本
	11	三点透視図法	構図　人物の関係性
	12	三点透視図法	三点透視図法を用いた背景作画
	13	三点透視図法	三点透視図法を用いた背景作画
	14	前期まとめ	前期末課題返却と振り返り、制作、添削
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	背景制作実習Ⅰ		指導担当者名	志村　早織
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	背景を、正確な遠近法を用いて作画できる技術を習得する 一点透視図法、二点透視図法を学び、室内から屋外まで描画できる力を養う			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	各種画材			
授業外学習の方法	課題制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	背景の描き方の復習	透視図の復習。各種比較と違い、注意点
	2	デジタルイラストの背景	背景に使えるデジタルテクスチャ紹介
	3	デジタルイラストの背景	背景に使えるテクスチャ制作　作品制作
	4	イラスト制作①	透視図を用いて、実在する建物と人物のイラスト制作
	5	イラスト制作①	透視図を用いて、実在する建物と人物のイラスト制作　添削
	6	イラスト制作①	透視図を用いて、実在する建物と人物のイラスト制作　完成
	7	イラスト制作②	透視図を用いて、想像上の風景のカラーイラスト制作
	8	イラスト制作②	透視図を用いて、想像上の風景のカラーイラスト制作　添削
	9	イラスト制作②	透視図を用いて、想像上の風景のカラーイラスト制作　完成
	10	イラスト制作②	世界観がわかる背景を描いた小説の挿絵制作
	11	期末課題制作	世界観がわかる背景を描いた小説の挿絵制作
	12	期末課題制作	世界観がわかる背景を描いた小説の挿絵制作
	13	課題確認	期末課題発表
	14	発表	期末課題発表
	15	振り返り	期末課題展示
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	キャラクター制作実習Ⅰ		指導担当者名	志村　早織
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・人物の基本的構造を理解する ・人物描画の基礎を身に付ける ・背景描画の基礎を身に付ける ・背景と人物が同じ空間にいるように、違和感なく描ける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	手書き資料			
授業外学習の方法	課題制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	自己紹介	自己紹介
	2	顔を描く	男女の描き分け（女）
	3	顔を描く	年齢の描き分け（男）
	4	顔を描く	アオリ
	5	手を描く	基本の動き、男女の違い（女）
	6	足を描く	基本の動き、男女の違い（男）
	7	全身を描く	男女の描き分け、等身について（女）
	8	全身を描く	男女の描き分け、等身について（男）
	9	全身を描く	男女の描き分け、等身について（等身）
	10	期末課題	全身イラストA4　テーマ：水着（課題発表）
	11	期末課題	全身イラストA4　テーマ：水着（進捗チェック及びアドバイス）
	12	期末課題	全身イラストA4　テーマ：水着（発表会）
	13	期末課題	全身イラストA4　テーマ：水着（課題提出）
	14	振り返り	個別指導
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	キャラクター制作実習Ⅰ		指導担当者名	志村　早織
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・人物の基本的構造を理解する ・人物描画の基礎を身に付ける ・背景描画の基礎を身に付ける ・背景と人物が同じ空間にいるように、違和感なく描ける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	手書き資料			
授業外学習の方法	課題制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	表情	喜怒哀楽
	2	動き	コントラポスト
	3	オリジナルキャラづくり	イメージを膨らませる
	4	期末課題	三面図(二週連続課題)
	5	期末課題	三面図（二週連続課題）
	6	振り返り	返却、アドバイス
	7	期末課題	テーマイラスト制作　テーマ：全身
	8	期末課題	テーマイラスト制作　テーマ：全身（イラスト制作）
	9	期末課題	テーマイラスト制作　テーマ：全身（中間確認）
	10	期末課題	テーマイラスト制作　テーマ：全身（アドバイス）
	11	期末課題	テーマイラスト制作　テーマ：全身（最終提出）
	12	期末課題	期末課題の確認、質問、個別指導
	13	課題確認	期末課題の発表
	14	発表	提出後、アドバイス
	15	振り返り	個別指導
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	pixiv演習Ⅰ		指導担当者名	藤岡　阿比努	
実務経験	デザイン制作会社、デザイン制作業務に2年従事			実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年		
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：	
時間数	84時間	週時間数	3時間		
学習到達目標	・クリエイターにかかわる最新のweb活用を習得 ・イラストコミュニケーションサービス「pixiv」を運営している ピクシブ株式会社アサインのクリエイターから、現在の技術・これから発展していく クリエイティブな環境について学習し、作品発信につなげる				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	Machintosh PC,・スマートフォン・iPad・アップルペンシル・ペンタブレット				
授業外学習の方法	pixiv　sensei機能を使った復習				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	担当教員紹介及び授業内容確認
	2	キャラクターデザイン①	創作キャラの簡潔な紹介、プロフィールの作成及び個別指導（2週連続課題）
	3	キャラクターデザイン①	創作キャラの簡潔な紹介、プロフィールの作成及び個別指導（2週連続課題）
	4	キャラクターデザイン②	三面図を描く及び個別指導（2週連続課題）
	5	キャラクターデザイン②	三面図を描く及び個別指導（2週連続課題）
	6	キャラクターデザイン③	表情差分を描く及び個別指導（2週連続課題）
	7	キャラクターデザイン③	表情差分を描く及び個別指導（2週連続課題）
	8	イラスト制作	自分の創作キャラの一枚絵（背景を含めた）を描く及び個別指導（2週連続課題）
	9	イラスト制作	自分の創作キャラの一枚絵（背景を含めた）を描く及び個別指導（2週連続課題）
	10	pixivfactory制作	自分の絵を使用したグッズを制作する（PixivFACTORY使用方法）
	11	pixivfactory制作	自分の絵を使用したグッズを制作する及び個別指導（アイデア絵に起こす）
	12	pixivfactory制作	自分の絵を使用したグッズを制作する（イラストを完成させる）
	13	まとめ	学習した内容の確認、まとめ
	14	発表	完成作品の発表、確認
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	pixiv演習Ⅰ		指導担当者名	藤岡　阿比努	
実務経験	デザイン制作会社、デザイン制作業務に2年従事			実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年		
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：	
時間数	84時間	週時間数	3時間		
学習到達目標	・クリエイターにかかわる最新のweb活用を習得 ・イラストコミュニケーションサービス「pixiv」を運営している ピクシブ株式会社アサインのクリエイターから、現在の技術・これから発展していく クリエイティブな環境について学習し、作品発信につなげる				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	Machintosh PC,・スマートフォン・iPad・アップルペンシル・ペンタブレット				
授業外学習の方法	pixiv　sensei機能を使った復習				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	「VRoid」3Dアバター制作	3Dでキャラクターのベースとなる素体を制作及び個別指導
	2	「VRoid」3Dアバター制作	3Dでキャラクターを制作及び個別指導（キャラクターの顔、表情を制作）
	3	「VRoid」3Dアバター制作	3Dでキャラクターを制作及び個別指導（キャラクターの髪型をデザイン、制作する）
	4	「VRoid」3Dアバター制作	3Dでキャラクターを制作及び個別指導（キャラクターの服装を制作する。3週連続課題）
	5	「VRoid」3Dアバター制作	3Dでキャラクターを制作及び個別指導（キャラクターの服装を制作する。3週連続課題）
	6	「VRoid」3Dアバター制作	3Dでキャラクターを制作及び個別指導（キャラクターの服装を制作する。3週連続課題）
	7	3Dモデルデッサン	制作した3Dモデルのキャラクターにポーズをとらせ絵を描く（正面向き）
	8	3Dモデルデッサン	制作した3Dモデルのキャラクターにポーズをとらせ絵を描く（アオリ）
	9	3Dモデルデッサン	制作した3Dモデルのキャラクターにポーズをとらせ絵を描く（フカン）
	10	3Dモデルデッサン	制作した3Dモデルのキャラクターにポーズをとらせ絵を描く（アクションポーズ）
	11	3Dモデルデッサン	制作した3Dモデルのキャラクターにポーズをとらせ絵を描く（日常風景　例:歩く、走る）
	12	3Dモデルデッサン	制作した3Dモデルのキャラクターにポーズをとらせ絵を描く（自身のキャラクターの世界観にあったポージングで描く）
	13	まとめ	学習した内容の確認、まとめ
	14	発表	完成作品の発表、確認
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	アナログイラスト実習Ⅰ		指導担当者名	山田　直美
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	・コミックイラスト表現に使用する各種画材の使用方法をマスターする ・各種画材の特徴と自分にあった表現の特徴を理解し選び別けて使用できるようになること ・各種画材の特徴を活かしての表現が出来るようになること			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	コピック、水彩色鉛筆、コットマンハーフパン他			
授業外学習の方法	提出課題の制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	授業説明、準備物確認
	2	画力確認	iPadの起動確認
	3	コピック基礎	メディバンペイントのインストール、立ち上げ
	4	連携企業授業	操作説明と実践
	5	連携企業授業	線画抽出
	6	コピック作品制作	抽出した線画に着彩
	7	水彩色鉛筆	オリジナル線画
	8	水彩色鉛筆	線画着彩
	9	作品制作①	機能、ブラシ説明、ダウンロード
	10	作品制作②	保存方法、形式説明
	11	期末課題制作	プリントアウトの手順説明
	12	期末課題制作	前期末課題発表
	13	期末課題制作	前期末課題制作、提出
	14	課題回収	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	アナログイラスト実習Ⅰ		指導担当者名	山田　直美
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	デジタルペイントソフトの技術向上 使い方から応用を学習し、制作の幅を広げていく			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	iPad、アップルペンシル			
授業外学習の方法	提出課題の制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	背景の描き方の復習	透視図の復習。各種比較と違い、注意点
	2	デジタルイラストの背景	背景に使えるデジタルテクスチャ紹介
	3	デジタルイラストの背景	背景に使えるテクスチャ制作　作品制作
	4	イラスト制作①	透視図を用いて、実在する建物と人物のイラスト制作
	5	イラスト制作①	透視図を用いて、実在する建物と人物のイラスト制作　添削
	6	イラスト制作①	透視図を用いて、実在する建物と人物のイラスト制作　完成
	7	イラスト制作②	透視図を用いて、想像上の風景のカラーイラスト制作
	8	イラスト制作②	透視図を用いて、想像上の風景のカラーイラスト制作　添削
	9	イラスト制作②	透視図を用いて、想像上の風景のカラーイラスト制作　完成
	10	イラスト制作②	世界観がわかる背景を描いた小説の挿絵制作
	11	期末課題制作	世界観がわかる背景を描いた小説の挿絵制作
	12	期末課題制作	世界観がわかる背景を描いた小説の挿絵制作
	13	課題確認	期末課題発表
	14	発表	期末課題発表
	15	振り返り	期末課題展示
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	デジタルイラスト実習Ⅰ		指導担当者名	丸子　遥華
実務経験	広告代理店、デザイン制作業務に3年従事		実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	デジタルペイントソフトの技術向上 使い方から応用を学習し、制作の幅を広げていく			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	iPad、アップルペンシル			
授業外学習の方法	提出課題の制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	授業説明、準備物確認
	2	アプリの起動	iPadの起動確認
	3	操作方法	メディバンペイントのインストール、立ち上げ
	4	操作方法	操作説明と実践
	5	実践	線画抽出
	6	実践	抽出した線画に着彩
	7	実践	オリジナル線画
	8	実践	線画着彩
	9	実践	機能、ブラシ説明、ダウンロード
	10	実践	保存方法、形式説明
	11	実践	プリントアウトの手順説明
	12	実践	前期末課題発表
	13	実践	前期末課題制作、提出
	14	作品添削、振り返り	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	デジタルイラスト実習Ⅰ		指導担当者名	丸子　遥華	
実務経験	広告代理店、デザイン制作業務に3年従事			実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年		
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：	
時間数	84時間	週時間数	3時間		
学習到達目標	デジタルペイントソフトの技術向上 使い方から応用を学習し、制作の幅を広げていく				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	iPad、アップルペンシル				
授業外学習の方法	提出課題の制作				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	背景の描き方の復習	透視図の復習。各種比較と違い、注意点
	2	デジタルイラストの背景	背景に使えるデジタルテクスチャ紹介
	3	デジタルイラストの背景	背景に使えるテクスチャ制作　作品制作
	4	イラスト制作①	透視図を用いて、実在する建物と人物のイラスト制作
	5	イラスト制作①	透視図を用いて、実在する建物と人物のイラスト制作　添削
	6	イラスト制作①	透視図を用いて、実在する建物と人物のイラスト制作　完成
	7	イラスト制作②	透視図を用いて、想像上の風景のカラーイラスト制作
	8	イラスト制作②	透視図を用いて、想像上の風景のカラーイラスト制作　添削
	9	イラスト制作②	透視図を用いて、想像上の風景のカラーイラスト制作　完成
	10	イラスト制作②	世界観がわかる背景を描いた小説の挿絵制作
	11	期末課題制作	世界観がわかる背景を描いた小説の挿絵制作
	12	期末課題制作	世界観がわかる背景を描いた小説の挿絵制作
	13	課題確認	期末課題発表
	14	発表	期末課題発表
	15	振り返り	期末課題展示
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	色彩概論Ⅰ		指導担当者名	志村　早織	
実務経験				実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、マンガクリエイト科、コミックイラスト科、コミックマスター科、動画・映像クリエイト科、YouTuberクリエイト科　選択者		
授業方法	講義：◯	演習：	実習：	実技：	
時間数	56時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	色彩検定3級合格を目指す				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	色彩概論テキスト				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、簡単な実習
	2	確認テスト色番号	教科書、問題集PCCS
	3	確認テスト色のはたらきについて	教科書、問題集色のはたらき、色とイメージ
	4	確認テスト光と色	教科書、問題集色はなぜ見えるのか、目のしくみ
	5	確認テスト混色	教科書、問題集照明と色の見え方、加法混色、減法混色
	6	確認テスト色の分類と三属性	教科書、問題集色の三属性、等色相面
	7	確認テストPCCS色相	教科書、問題集色相、明度、彩度、トーンのイメージ
	8	確認テストトーン記号	教科書、問題集色相とトーンによる色の表示方法
	9	確認テスト慣用色名①	教科書、問題集慣用句名、暖色と寒色
	10	確認テスト色彩心理	教科書、問題集進出色と後退色、膨張色と収縮色
	11	確認テスト色対比と錯視	教科書、問題色対比、同化効果、色陰現象、色の錯視
	12	確認テスト色彩調和	教科書、問題集配色、色相から配色を考える
	13	確認テスト色彩効果	教科書、問題集配色技法、色彩と構成
	14	レポート作成	まとめ
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	色彩概論Ⅰ		指導担当者名	志村　早織	
実務経験				実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、マンガクリエイト科、コミックイラスト科、コミックマスター科、動画・映像クリエイト科、YouTuberクリエイト科　選択者		
授業方法	講義：◯	演習：	実習：	実技：	
時間数	56時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	色彩検定3級合格を目指す				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	色彩概論テキスト				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	確認テスト授業説明	教科書、問題集
	2	確認テスト色彩と生活	教科書、問題集生活環境と色彩、生活環境とカラーコーディネーション
	3	確認テストファッションと色彩	教科書、問題集 ファッションとは、ファッションコーディネートにおける色彩、基本的なカラーコー
	4	確認テストインテリアと色彩	教科書、問題集 インテリアとは、住宅インテリアの色彩
	5	確認テストインテリアのカラーコーディネーション	教科書、問題集 インテリアのカラーコーディネーション、インテリアにおける色の心理的効果
	6	確認テストコーポレートカラー	教科書、問題集 インテリアの配色、インテリアにおける色彩検討、コーポレートカラー
	7	確認テスト慣用色名②	教科書、問題集慣用句名説明
	8	確認テスト過去問題	2017夏解答と解説
	9	確認テスト過去問題	2017冬解答と解説
	10	確認テスト過去問題	2018夏解答と解説
	11	確認テスト過去問題	2018冬解答と解説
	12	確認テスト過去問題	2019夏解答と解説
	13	色彩検定2級についての説明	次年度概要説明
	14	レポート作成	まとめ
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	色彩概論Ⅱ		指導担当者名	大坂　美智子
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、マンガクリエイト科、コミックイラスト科、コミックマスター科、動画・映像クリエイト科、YouTuberクリエイト科　選択者	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	色彩検定2級合格のための学習 テキスト、問題集、過去の検定試験などで学習を進める。カラーカードを使用した実技を取り入れて、配色に関する知識を身に付けていく。前期１回・後期１回アンケート実施し。疑問質問に答える時間をつくり受験に対する不安を減らしてサポート合格を目指していく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	2級テキスト、3級テキスト、問題集、カラーカード等			
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、学習方法確認・3級振り返り・色彩動画観賞・次回準備
	2	確認テスト配色イメージ・色彩調和生活と色	教科書、問題集、豆テスト・トーン別色相環制作・配色イメージと色彩調和
	3	確認テスト配色イメージ・色彩調和生活と色	教科書、問題集・豆テスト・色彩調和
	4	確認テスト色彩調和・色のUD光と色	教科書、問題集・豆テスト・色彩調和と色のUD
	5	確認テスト色のUD・光と色	教科書、問題集・豆テスト・色のUDと光と色
	6	確認テスト光と色・マンセル表色系	教科書、問題集・豆テスト・光と色とマンセル表色系
	7	確認テストマンセル・色彩心理・ビジュアル	教科書、問題集・豆テスト・マンセル表色系と色彩心理とビジュアル
	8	確認テストビジュアル・ファッション	教科書、問題集・豆テスト・ビジュアルとファッション・テキスト前半部確認テストインフォメーション
	9	テキスト確認テストファッション・インテリア	・テキスト前半部確認テスト実施・教科書、問題集ファッションとインテリア・期末テストインフォメーション
	10	確認テスト・インテリア・景観	教科書、問題集　インテリア・景観色彩
	11	確認テスト景観	教科書、問題集景観色彩
	12	テキストまとめ	・テキストまとめ・アンケート実施・夏休み中の宿題インフォメーション
	13	前期期末試験	期末試験・インフォメーションとアンケート実施
	14	前期振り返り	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	色彩概論Ⅱ		指導担当者名	大坂　美智子
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、マンガクリエイト科、コミックイラスト科、コミックマスター科、動画・映像クリエイト科、YouTuberクリエイト科　選択者	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	色彩検定2級合格のための学習 テキスト、問題集、過去の検定試験などで学習を進める。カラーカードを使用した実技を取り入れて、配色に関する知識を身に付けていく。前期１回・後期１回アンケート実施し。疑問質問に答える時間をつくり受験に対する不安を減らしてサポート合格を目指していく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	2級テキスト、3級テキスト、問題集、カラーカード等			
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	宿題回収・テキスト振り返り	・夏休み課題提出日・教科書、問題集・過去問各章ごと実施と振り返り
	2	各章の過去問実施	教科書、問題集・過去問各章テスト実施と振り返り
	3	各章の過去問実施	教科書、問題集・過去問各章テスト・実施と振り返り
	4	各章の過去問実施	教科書、問題集過去問各章テスト実施・進捗確認アンケート実施・次回インフォメーション
	5	確認テスト過去問題	過去問実施（７０分）・試験対策勉強方法ポイント解説とテキスト振り返り
	6	確認テスト過去問題	過去問実施（７０分）・試験対策ポイント解説とテキスト振り返り
	7	確認テスト過去問題	過去問実施（７０分）・試験対策ポイント解説とテキスト振り返り
	8	確認テスト過去問題	2017夏解答と解説
	9	確認テスト過去問題	2017冬解答と解説
	10	確認テスト過去問題	2018夏解答と解説
	11	確認テスト過去問題	2018冬解答と解説
	12	確認テスト過去問題	2019夏解答と解説
	13	後期期末試験	期末試験・インフォメーションとアンケート実施
	14	後期振り返り	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	作品制作演習Ⅰ		指導担当者名	山田　直美
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト、コミックマスター科　希望者	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	各自の設定した目標に合わせたイラストの作成、添削 制作スケジュールを管理する能力の育成			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	各自制作内容に合わせて準備			
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	自己紹介、授業内容説明	自己紹介、授業内容説明
	2	企画書	企画の制作方法
	3	企画書	企画書制作　（流行のテーマから選んで
	4	企画書	個別添削
	5	スケジュール計画	作品制作スケジュールを立てる
	6	確認	企画書確認
	7	作品制作	作品制作、個別添削
	8	作品制作	作品制作、個別添削
	9	作品制作	作品制作、個別添削
	10	確認	制作進捗確認
	11	作品制作	作品制作、個別添削
	12	作品制作	作品制作、個別添削
	13	確認	制作進捗確認
	14	作品制作	前期目標スケジュールまでの進捗確認
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

作品制作
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	作品制作演習Ⅰ		指導担当者名	山田　直美
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト、コミックマスター科　希望者	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	各自の設定した目標に合わせたイラストの作成、添削 制作スケジュールを管理する能力の育成			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	各自制作内容に合わせて準備			
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	オリエンテーション	企画書確認
	2	作品制作	作品制作、個別添削
	3	作品制作	作品制作、個別添削
	4	作品制作	作品制作、個別添削
	5	確認	制作進捗確認
	6	プレゼン確認	企画書で作ったプレゼン形式の確認
	7	作品制作	企業依頼を想定しての作品制作
	8	作品制作	企業依頼を想定しての作品制作
	9	作品制作	作品発表、添削
	10	作品制作	受験企業を想定した作品制作
	11	作品制作	受験企業を想定した作品制作
	12	作品制作	作品制作、個別添削
	13	発表	作品発表確認
	14	発表	作品発表確認
	15	卒業制作	卒業制作、企画書制作
	16	卒業制作	卒業制作、企画書制作

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	アート概論		指導担当者名	藤岡　阿比努
実務経験	デザイン制作会社、デザイン制作業務に2年従事		実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
時間数	28時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	現代で人気の作品や分野を鑑賞・研究し、人気になる理由を考える 自身の制作に活かす			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	Machintosh PC			
授業外学習の方法	課題作品の制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション口	科目受講の注意点の説明
	2	作品から感じるもの1	前回の作家の作品を1つ持参させる（プリントアウトしたもの）、全員が持ち寄った作品1つ1つを見て回り各作品から読み取ったものを記述する→提出
	3	作品から感じるもの2	前回の作品の特徴について分析（テーマやテクニックなど）レポート形式→提出
	4	作品を読む	米山舞/イラストレーター最前線で活躍する人物から魅力を分析
	5	作品を読む	そゐち/学生時代から何を意識してどう動いていたかを分析
	6	作品を読む	ILLUSTRATIONに掲載されているイラストレーターの作品を見て気になった人を挙げどこに魅力を感じたのかを研究する
	7	作品を読む	ILLUSTRATIONに掲載されているイラストレーターの作品を見て気になった人を挙げどこに魅力を感じたのかを研究する
	8	この人の絵はすぐわかる！	パッと見て誰もがわかる作風の作家を挙げさせる、特徴・画材などの分析
	9	この人の絵はすぐわかる！	パッと見て誰もがわかる作風の作家を挙げさせる、特徴・画材などの分析
	10	この人の絵はすぐわかる！	パッと見て誰もがわかる作風の作家を挙げさせる、特徴・画材などの分析
	11	この人の絵はすぐわかる！	パッと見て誰もがわかる作風の作家を挙げさせる、特徴・画材などの分析
	12	この人の絵はすぐわかる！	パッと見て誰もがわかる作風の作家を挙げさせる、特徴・画材などの分析
	13	この人の絵はすぐわかる！	パッと見て誰もがわかる作風の作家を挙げさせる、特徴・画材などの分析
	14	オリジナリティって？	講義
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	アート概論		指導担当者名	藤岡　阿比努
実務経験	デザイン制作会社、デザイン制作業務に2年従事		実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
時間数	28時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	現代で人気の作品や分野を鑑賞・研究し、人気になる理由を考える 自身の制作に活かす			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	Machintosh PC			
授業外学習の方法	課題作品の制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	作品から感じるもの1	望月けい/今流行りのイラストレーターから魅力を分析
	2	作品から感じるもの2	LAM/多色を使用するイラストレーターから色使いを分析
	3	作品から感じるもの3	火照ちげ/写真と一体化したイラストから表現方法を分析
	4	作品を読む	ILLUSTRATIONに掲載されているイラストレーターの作品を見て気になった人を挙げどこに魅力を感じたのかを研究する
	5	作品を読む	ILLUSTRATIONに掲載されているイラストレーターの作品を見て気になった人を挙げどこに魅力を感じたのかを研究する
	6	この人の絵はすぐわかる！	パッと見て誰もがわかる作風の作家を挙げさせる、特徴・画材などの分析
	7	この人の絵はすぐわかる！	パッと見て誰もがわかる作風の作家を挙げさせる、特徴・画材などの分析
	8	この人の絵はすぐわかる！	パッと見て誰もがわかる作風の作家を挙げさせる、特徴・画材などの分析
	9	この人の絵はすぐわかる！	パッと見て誰もがわかる作風の作家を挙げさせる、特徴・画材などの分析
	10	この人の絵はすぐわかる！	パッと見て誰もがわかる作風の作家を挙げさせる、特徴・画材などの分析
	11	この人の絵はすぐわかる！	パッと見て誰もがわかる作風の作家を挙げさせる、特徴・画材などの分析
	12	目を惹きつけるものとは	講義
	13	期末試験フィードバック	
	14	期末試験フィードバック	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	コミュニケーション演習		指導担当者名	佐藤　美希子
実務経験				実務経験：
開講時期	前期	対象学科学年	全学科1年	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
時間数	28 時間	週時間数	1週/28時間	
学習到達目標	サーティファイ　コミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。			
評価方法 評価基準	筆記試験、出席率、模擬試験結果、検定結果による評価を行う 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する			
使用教材	コミュニケーション検定初級　テキスト			
授業外学習の方法	テキストを使用し、過去問題を回答する			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明
	2	パート1　コミュニケーションセオリー（理論）	１－１コミュニケーションを考える、２－１目的に即して聞く
	3	パート1　コミュニケーションセオリー（理論）	２－２傾聴・質問する
	4	パート1　コミュニケーションセオリー（理論）	３－１目的を意識する
	5	パート1　コミュニケーションセオリー（理論）	３－２話を組み立てる
	6	パート1　コミュニケーションセオリー（理論）	３－３言葉を選び抜く
	7	パート1　コミュニケーションセオリー（理論）	３－４表現伝達する
	8	パート2　コミュニケーションプラクティス（実践）	１－１来客応対、１－２電話応対
	9	パート2　コミュニケーションプラクティス（実践）	１－３アポイントメント・訪問・挨拶、１－４情報共有の重要性
	10	パート2　コミュニケーションプラクティス（実践）	１－５チームコミュニケーション
	11	パート2　コミュニケーションプラクティス（実践）	２－１接客営業、２－２クレーム対応
	12	パート2　コミュニケーションプラクティス（実践）	２－３会議・取材・ヒアリング、２－４面接
	13	検定対策	模擬試験
	14	期末試験	検定本番
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	修了制作Ⅰ		指導担当者名	山田　直美
実務経験				実務経験：
開講時期	後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　1年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	180時間	週時間数	6週/180時間	
学習到達目標	・学科で学んだ内容を活かした作品制作 ・テーマを掲げ対象者を意識した作品制作 ・自らの作品をアピールするプレゼンテーションが出来る			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			

学期	ターム（週）	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	作品制作開始	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても
			可視化していく
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
			学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く
			・制作のポイント　・展示計画　・プレゼン能力　・資料の見やすさ　など
	5	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備、
			また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作
	6	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施
			・学科内の作品の見どころの紹介　・一般来場者の対応
			*学科内シフトにより登校
			展示終了後は撤収と作品保管をする

履修上の留意点
・出席率が80%に満たない場合は、発表機会を与えない
・プレゼンテーションにて不合格だった場合、修正し、翌週期限を設け再プレゼンを実施
そこで一定の評価があれば合格とする

授業計画（シラバス）

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	全学科2、3年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
時間数	28時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	就職活動指導 ＊学生の進路にあわせて柔軟に指導してください。 （プロ希望、業界志望、その他企業志望）			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	動画教材　SUCCESS			
授業外学習の方法	’教科書の復習。ニュースを見る。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	1年次の確認	履歴書、入退室の確認
	2	受験後の報告	動画なし　受験後の報告と内定後の生活、不合格した場合の振り返り
	3	就職試験のマナー	5-1~5-2まで　面接、試験時の確認
	4	巻末資料確認	P39~45　P94~ ビジネス文章の書き方、メール
	5	履歴書確認　1	3-8　全体の書き方の見直し
	6	履歴書確認　2	3-4~3-6-2　自己PRの見直し
	7	履歴書確認　3	3-7~3-8　志望動機の見直し
	8	履歴書確認　4	3-1~3-3,3-6~3-6-2　履歴書にふさわしい文章の書き方の見直し
	9	面接対策　1	4-1~4-5　面接での振る舞いについて
	10	面接対策　2	4-1~4-5　面接で緊張をした時の対策,緊張しないための対策
	11	面接対策　3	4-1~4-5　面接での話し方について
	12	個別指導	履歴書作成、個別指導
	13	個別指導	履歴書作成、個別指導
	14	期末試験	履歴書完成
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

作品制作

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	全学科2、3年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
時間数	28時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	就職活動指導 ＊学生の進路にあわせて柔軟に指導してください。 （プロ希望、業界志望、その他企業志望）			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	動画教材　SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書の復習。ニュースを見る。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	受験後の報告	動画なし　受験後の報告と内定後の生活、不合格した場合の振り返り
	2	就職試験のマナー	5-2~5-2(実践編)　面接、試験時の確認
	3	巻末資料確認	以前のテキストサクセス参照　P39~45　P94~ ビジネス文書、メール、インターネット使用の注意
	4	履歴書確認　1	全体の書き方の見直し
	5	履歴書確認　2	自己PRの見直し
	6	履歴書確認　3	志望動機の見直し
	7	筆記試験対策　1	3-1~3-3,3-6~3-6-2,5-3~5-5　各種適性検査、一般常識、作文
	8	筆記試験対策　2	3-1~3-3,3-6~3-6-2,5-3~5-5　各種適性検査、一般常識、作文
	9	筆記試験対策　3	3-1~3-3,3-6~3-6-2,5-3~5-5　各種適性検査、一般常識、作文
	10	個別指導	動画なし　個人の状況に合わせて動画使用
	11	個別指導	動画なし　個人の状況に合わせて動画使用
	12	個別指導	動画なし　個人の状況に合わせて動画使用
	13	個別指導	動画なし　個人の状況に合わせて動画使用
	14	期末試験	作文「卒業後の進路と抱負」800字程度で
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	クロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	全学科2年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・様々な学科教員から、各分野の基本的な知識技術を学ぶ。 ・前期では、目標達成ポイントとする。 ・後期では、目標達成ポイントとする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	なし			
授業外学習の方法	なし			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション口	科目受講の注意点の説明
	2	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	3	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	4	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	5	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	6	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	7	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	8	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	9	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	10	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	クロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	志村、佐藤、渡邊
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	全学科2年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・様々な学科教員から、各分野の基本的な知識技術を学ぶ。 ・前期では、目標達成ポイントとする。 ・後期では、目標達成ポイントとする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	なし			
授業外学習の方法	なし			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	2	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	3	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	4	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	5	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	6	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	7	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	8	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	9	学科基礎	各教員より基礎的な知識、技術レクチャー
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	クライアントワーク実習Ⅱ		指導担当者名	山田　直美
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	・産学連携の作品制作を行い、活動の発信を目的とする時間 ・コミュニケーション向上と地域貢献を目的とした校外イベントへの参加			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	各自制作内容に合わせて準備			
授業外学習の方法	課題作品の制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	自己紹介、授業内容説明
	2	レクチャー会	企画の制作方法
	3	レクチャー会	企画書制作　（流行のテーマから選んで
	4	イベント参加	個別添削
	5	振り返り	作品制作スケジュールを立てる
	6	産学連携説明会	企画書確認
	7	コンセプト確認	作品制作、個別添削
	8	作品制作	作品制作、個別添削
	9	オリエンテーション	作品制作、個別添削
	10	イメージキャラクター制作制作	制作進捗確認
	11	イメージキャラクター制作	作品制作、個別添削
	12	イメージキャラクター制作	作品制作、個別添削
	13	イメージキャラクター制作	制作進捗確認
	14	振り返り	前期目標スケジュールまでの進捗確認
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

作品制作
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	クライアントワーク実習Ⅱ		指導担当者名	山田　直美
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	・産学連携の作品制作を行い、活動の発信を目的とする時間 ・コミュニケーション向上と地域貢献を目的とした校外イベントへの参加			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	各自制作内容に合わせて準備			
授業外学習の方法	課題作品の制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	オリエンテーション	依頼企業来校　説明会（内容、スケジュール確認）
	2	産学連携作品制作	フォトスポットイラスト制作（コンセプト確認）
	3	産学連携作品制作	フォトスポットイラスト制作（制作）
	4	産学連携作品制作	フォトスポットイラスト制作（制作）
	5	産学連携作品制作	フォトスポットイラスト制作（制作・完成）
	6	プレゼン	依頼企業来校　作品プレゼン
	7	イベント参加作品制作	国内のイラストイベント参加に向けた作品制作（イベント申し込み、出店コンセプト確認）
	8	イベント参加作品制作	国内のイラストイベント参加に向けた作品制作（作品制作）
	9	イベント参加作品制作	国内のイラストイベント参加に向けた作品制作（作品制作・添削）
	10	イベント参加作品制作	国内のイラストイベント参加に向けた作品制作（完成）
	11	ワークショップ企画	県内企業のボランティアイベントへの参加
	12	期末課題	行事イラスト　カレンダー制作
	13	期末課題	行事イラスト　カレンダー制作（完成、提出）
	14	振り返り	作品、参加イベントの内容をまとめる
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	コミックイラスト実習Ⅱ		指導担当者名	大坂　美智子
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	イラスト投稿雑誌「SSスモールエス」、また「季刊エス」へ投稿し、掲載を狙い、自分自身を売り込んでいく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	PC、iPad、スマートフォン			
授業外学習の方法	提出作品の制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	授業説明	説明
	2	傾向対策	ss掲載作品の分析
	3	イラスト制作、個別指導	一人ずつ面談を行い、各自の目標により、イラストの傾向を絞っていく
	4	イラスト制作①	ssテーマイラストの下書きチェック、制作及び投稿
	5	傾向対策	ss掲載作品の分析　自分のオリジナリティの方向性を検討する
	6	イラスト制作②	キャラクターの表情に特化したイラスト投稿　下書き
	7	イラスト制作②	制作及び投稿
	8	イラスト制作③	ss掲載作品の分析　自身の絵柄の分析
	9	イラスト制作③	キャラクターのポーズに特化したイラスト投稿　下書き
	10	イラスト制作④	ss掲載作品の分析、掲載確認
	11	イラスト制作④	作品制作、個別添削
	12	期末考査フィードバック	
	13	期末考査フィードバック	
	14	期末考査フィードバック	
	15		
	16		

作品制作
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	コミックイラスト実習Ⅱ		指導担当者名	大坂　美智子
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	イラスト投稿雑誌「SSスモールエス」、また「季刊エス」へ投稿し、掲載を狙い、自分自身を売り込んでいく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	PC、iPad、スマートフォン			
授業外学習の方法	提出作品の制作			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	授業説明	説明・季刊s掲載作品の分析
	2	個別確認	一人ずつ面談を行い、各自の目標により、イラストの傾向を絞っていく
	3	イラスト制作⑤	季刊s、ssテーマイラストの下書きチェック
	4	イラスト制作⑤	制作及び投稿
	5	確認	オリジナル表現の方向性の確認
	6	イラスト制作⑦	光の表現に特化した作品制作。　下書き
	7	イラスト制作⑦	光の表現に特化した作品制作。　個別添削
	8	イラスト制作⑧	季刊s、ssテーマイラストの下書きチェック
	9	イラスト制作⑧	季刊s、ssテーマイラストの個別添削
	10	イラスト制作⑧	季刊s、ssテーマイラストの完成、投稿確認
	11	後期末考査	県内企業のボランティアイベントへの参加
	12	期末考査フィードバック	
	13	期末試験フィードバック	
	14	期末試験フィードバック	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	DTP実習		指導担当者名	岡部　美保	
実務経験	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事			実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年		
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：	
時間数	112時間	週時間数	4時間		
学習到達目標	基礎的な描写力のいろいろな印刷物の特徴やイラストレーター・フォトショップデータの作成方法、レイアウトの基礎も含めて印刷までの工程を入稿用データ作品を完成させて学びます。 □				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	印刷の基礎テキスト　Illustrator／ photo shop				
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	DTPについて	課題内容と作品課題サンプル参照/毎授業プロジェクター使用
	2	DTPでよく使うスキル復習	効率的なトレース方法と画像切り抜き
	3	広告物のデザインを観察する	各種印刷物観察／DTPについて
	4	印刷物の制作工程	DTPデザインテキスト/DTPでよく使うアプリ操作復習
	5	DTPデザイン基礎	レイアウト基礎について資料参照解説
	6	DTPデザイン基礎	レイアウト基礎について資料参照解説
	7	Illustrator/Photoshop復習	美しい文字組み、袋文字、Map作成について
	8	課題1/DTPデザイン基礎	A4広告オリジナルデザイン作成／ファイル形式と管理について
	9	課題1/DTPデザイン基礎	A4広告オリジナルデザイン作成添削、出力／紙の知識
	10	課題2/DTPデザイン	チラシデザイン作成／添削／出力断裁／画像解像度と網点
	11	課題2/DTPデザイン	チラシデザイン作成／出力断裁／レイアウト校正とデータチェック
	12	復習	フライとチェックと出力依頼書について／前期まとめ
	13	期末試験フィードバック	
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	DTP実習		指導担当者名	岡部　美保	
実務経験	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事			実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年		
授業方法	講義：	演習：	実習：◯	実技：	
時間数	112時間	週時間数	4時間		
学習到達目標	基礎的な描写力のいろいろな印刷物の特徴やイラストレーター・フォトショップデータの作成方法、レイアウトの基礎も含めて印刷までの工程を入稿用データ作品を完成させて学びます。 □				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	印刷の基礎テキスト　Illustrator／ photo shop				
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	課題3/DTPデザイン	オリジナルパッケージデザインラフ作成／トラッピングの知識
	2	課題3/DTPデザイン	オリジナルパッケージデザイン／添削／出力／組み立て完成
	3	課題3/DTPデザイン	オリジナルパッケージデザイン制作／添削／出力／組み立て完成
	4	課題4/DTPデザイン	表裏ジャケットデザイン制作、CD、DVD、ゲームジャケット、雑誌など／ラフ作成
	5	課題4/DTPデザイン	表裏ジャケットデザイン制作
	6	課題4/DTPデザイン	表裏ジャケットデザイン制作／添削／出力
	7	課題5/DTPデザイン	製本について／並製本ページ物の面付け折丁方法、オリジナル作成
	8	課題5/DTPデザイン	並製本8～12ページ作成
	9	課題5/DTPデザイン	並製本8～12ページ作成／添削
	10	課題5/DTPデザイン	並製本8～12ページ作成／添削、出力中綴じ製本完成提出
	11	課題5/4版式について、まとめ	並製本8～12ページ作成／添削、出力中綴じ製本完成提出／印刷現場を動画で見る／PDFの活用
	12	データ提出	提出・フィードバック
	13	期末試験フィードバック	
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	マンガイラスト制作実習		指導担当者名	岡部　美保	
実務経験	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事			実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年		
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：	
時間数	56時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	キャラクター、背景などの線画の描画力向上 モノクロイラストの基礎を学び、モノクロイラストのさまざまな表現方法を追求していく				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	筆記用具、原稿用紙、マルチライナー、つけぺん、インク、ホワイト、トーン				
授業外学習の方法	提出作品の制作				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	課題1	好きなマンガを模写する
	2	課題1	丸ペン　Gペンで線画練習／マルチライナー等使用
	3	課題1・2	点の打ち方、集中線の作成方法／点描画作成
	4	課題2	点描画作成
	5	課題2	点描画作成
	6	トーン・ベタ・ホワイト	貼り方／削り方／きれいな仕上げ方
	7	期末準備	課題内容説明　習得した技術をすべて入れ、モノクロイラストを仕上げる
	8	課題3	下絵～線画
	9	課題3	原稿用紙　イラスト一枚(下書き制作、チェック)
	10	課題3	原稿用紙　イラスト一枚（線画）
	11	課題3	原稿用紙　イラスト一枚（ホワイト）
	12	課題3	原稿用紙　イラスト一枚（トーン、仕上げ）
	13	課題3	原稿用紙　イラスト一枚（提出）
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	マンガイラスト制作実習		指導担当者名	岡部　美保	
実務経験	デザイン会社・広告代理店、デザイン制作業務に6年従事			実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年		
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：	
時間数	56時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	キャラクター、背景などの線画の描画力向上 モノクロイラストの基礎を学び、モノクロイラストのさまざまな表現方法を追求していく				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	筆記用具、原稿用紙、マルチライナー、つけぺん、インク、ホワイト、トーン				
授業外学習の方法	提出作品の制作				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	コマ割り	セリフとコマ割り（コマ割りの説明）
	2	コマ割り	セリフとコマ割り（コマ割りの実践）
	3	コマ割り	セリフとコマ割り（セリフ入れ）
	4	課題4	期末課題発表　習得した技術をすべて入れ、モノクロイラストを1P仕上げる
	5	課題4	下絵～線画
	6	課題4	原稿用紙　イラスト(下書き制作、チェック)
	7	課題4	原稿用紙　イラスト（線画）
	8	課題4	原稿用紙　イラスト（ホワイト）
	9	課題4	原稿用紙　イラスト（トーン、仕上げ）
	10	課題4	原稿用紙　イラスト（提出）
	11	課題4	期末課題制作（進捗確認）
	12	課題4	期末課題制作（仕上げ）
	13	期末試験フィードバック	
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	メディアリテラシー演習Ⅰ		指導担当者名	丸子　遥華	
実務経験	広告代理店、デザイン制作業務に3年従事			実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年		
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：	
時間数	28 時間	週時間数	1時間		
学習到達目標	前期のポイント（以下の力を身に付ける） ・情報モラル ・メディアに対する自己コントロール力 ・情報をうのみにせず主体的批判的に受け取る力				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	Machintosh PC、ノート、筆記用具				
授業外学習の方法	・メディアに触れること				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	授業の説明	進め方、概要
	2	メディアリテラシーを考える	メディアリテラシーの意味
	3	メディアを知る	メディアの種類
	4	SNSを知る	SNSを使用する上での注意点
	5	SNSトラブル	SNSトラブルの対処法、ポイント
	6	ネット犯罪	加害者・被害者にならないために①
	7	ネットストーカー	加害者・被害者にならないため②
	8	アンガーマネジメント	自己マインドのコントロールについて
	9	ネットニュース	ネットニュースの仕組み
	10	フェイクニュース	文章の編集、画像・動画の編集、切り取りについて
	11	ネット広告	ネット広告の仕組み
	12	期末試験準備	試験範囲発表
	13	前期期末試験	期末試験
	14	前期振り返り	前期振り返り
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	メディアリテラシー演習Ⅰ	指導担当者名	丸子　遥華
実務経験	広告代理店、デザイン制作業務に3年従事	実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年
授業方法	講義： / 演習：〇	実習：	実技：
時間数	28 時間	週時間数	1時間
学習到達目標	後期のポイント（以下の力を身に付ける） ・情報発信能力 ・インターネット操作活用能力		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	Machintosh PC、ノート、筆記用具		
授業外学習の方法	・メディアに触れること		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	SNSマーケティング	SNSマーケティングの説明
	2	SNSマーケティング	バズらせるための考察
	3	情報発信をしてみよう	記事を書くコツと注意点
	4	情報発信をしてみよう	記事を読んで分析しよう
	5	SNSを分析してみよう	アカウント分析
	6	SNSを分析してみよう	インサイト
	7	SNSを分析してみよう	マーケティング
	8	JARO	景品表示法について
	9	JARO	優良誤認
	10	JARO	有利誤認
	11	JARO	薬機法
	12	期末試験準備	試験範囲発表
	13	後期期末試験	期末試験
	14	年間の講評	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	デジタルイラスト実習Ⅱ		指導担当者名	丸子　遥華
実務経験	広告代理店、デザイン制作業務に3年従事		実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	112時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・コミックイラスト表現に使用する各種画材の使用方法をマスターする ・各種画材の特徴を活かした表現が出来るようになること ・各種画材で自分の望む表現ができるようになること			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	コピック、水彩色鉛筆、コットマンハーフパン他			
授業外学習の方法	提出課題の制作。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	授業説明、オリエンテーション	自己紹介・前期、後期の大まかな授業内容及び目標の発表など
	2	作品制作	線画を描く際の注意点・ポイント
	3	作品制作	色トレス
	4	作品制作	彩度0にした際の自身のイラストの比較
	5	作品制作	カラーパレットの使用
	6	作品制作	通常色選びとカラーパレットの比較
	7	作品制作	色のバランス
	8	作品制作	メリハリのある色使い・色収差
	9	作品制作	一枚絵の制作（下がき）
	10	作品制作	一枚絵の制作（キャラクターデザイン）
	11	作品制作	一枚絵の制作（背景制作）
	12	作品制作	一枚絵の制作（一枚絵完成）
	13	データ提出	確認会・フィードバック
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	デジタルイラスト実習Ⅱ		指導担当者名	丸子　遥華
実務経験	広告代理店、デザイン制作業務に3年従事		実務経験：	有
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	112時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	デジタル描画ツールを絞らないデジタルイラスト全般における応用を使ったイラストの制作時間 個別指導によりクオリティの向上を目指す			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	PC・iPad			
授業外学習の方法	デジタルイラストの制作、予習、復習。作品のブラシュアップ			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	授業説明、オリエンテーション	後期の大まかな授業内容及び目標の発表など
	2	作品制作	質感（小物）
	3	作品制作	質感（服、人物）
	4	作品制作	質感を意識したイラスト制作
	5	作品制作	質感を意識したイラスト制作
	6	作品制作	空気感（髪の流れ）
	7	作品制作	空気感（手前にものを置く）
	8	作品制作	テーマに合わせたイラスト制作（人物）
	9	作品制作	テーマに合わせたイラスト制作（一枚絵完成）
	10	作品制作	一枚絵の制作（キャラクターデザイン）
	11	作品制作	一枚絵の制作（背景制作）
	12	データ提出	提出・フィードバック
	13	期末試験フィードバック	
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	pixiv演習Ⅱ		指導担当者名	山田　直美
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	・クリエイターにかかわる最新のweb活用を習得 ・イラストコミュニケーションサービス「pixiv」を運営している ピクシブ株式会社アサインのクリエイターから、現在の技術・これから発展していく クリエイティブな環境について学習し、作品発信につなげる			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	Machintosh PC,・スマートフォン・iPad・アップルペンシル・ペンタブレット			
授業外学習の方法	pixiv　sensei機能を使った復習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	担当教員紹介及び授業内容確認
	2	キャラクターデザイン①	創作キャラの簡潔な紹介、プロフィールの作成及び個別指導（2週連続課題）
	3	キャラクターデザイン①	創作キャラの簡潔な紹介、プロフィールの作成及び個別指導（2週連続課題）
	4	キャラクターデザイン②	三面図を描く及び個別指導（2週連続課題）
	5	キャラクターデザイン②	三面図を描く及び個別指導（2週連続課題）
	6	キャラクターデザイン③	表情差分を描く及び個別指導（2週連続課題）
	7	キャラクターデザイン③	表情差分を描く及び個別指導（2週連続課題）
	8	イラスト制作	自分の創作キャラの一枚絵（背景を含めた）を描く及び個別指導（2週連続課題）
	9	イラスト制作	自分の創作キャラの一枚絵（背景を含めた）を描く及び個別指導（2週連続課題）
	10	pixivfactory制作	自分の絵を使用したグッズを制作する（PixivFACTORY使用方法）
	11	pixivfactory制作	自分の絵を使用したグッズを制作する及び個別指導（アイデア絵に起こす）
	12	pixivfactory制作	自分の絵を使用したグッズを制作する（イラストを完成させる）
	13	まとめ	学習した内容の確認、まとめ
	14	発表	完成作品の発表、確認
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	Pixiv演習Ⅱ		指導担当者名	山田　直美
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	・クリエイターにかかわる最新のweb活用を習得 ・イラストコミュニケーションサービス「pixiv」を運営している ピクシブ株式会社アサインのクリエイターから、現在の技術・これから発展していく クリエイティブな環境について学習し、作品発信につなげる			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	Machintosh PC,・スマートフォン・iPad・アップルペンシル・ペンタブレット			
授業外学習の方法	pixiv　sensei機能を使った復習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	「VRoid」3Dアバター制作	3Dでキャラクターのベースとなる素体を制作及び個別指導
	2	「VRoid」3Dアバター制作	3Dでキャラクターを制作及び個別指導（キャラクターの顔、表情を制作）
	3	「VRoid」3Dアバター制作	3Dでキャラクターを制作及び個別指導（キャラクターの髪型をデザイン、制作する）
	4	「VRoid」3Dアバター制作	3Dでキャラクターを制作及び個別指導（キャラクターの服装を制作する。3週連続課題）
	5	「VRoid」3Dアバター制作	3Dでキャラクターを制作及び個別指導（キャラクターの服装を制作する。3週連続課題）
	6	「VRoid」3Dアバター制作	3Dでキャラクターを制作及び個別指導（キャラクターの服装を制作する。3週連続課題）
	7	3Dモデルデッサン	制作した3Dモデルのキャラクターにポーズをとらせ絵を描く（正面向き）
	8	3Dモデルデッサン	制作した3Dモデルのキャラクターにポーズをとらせ絵を描く（アオリ）
	9	3Dモデルデッサン	制作した3Dモデルのキャラクターにポーズをとらせ絵を描く（フカン）
	10	3Dモデルデッサン	制作した3Dモデルのキャラクターにポーズをとらせ絵を描く（アクションポーズ）
	11	3Dモデルデッサン	制作した3Dモデルのキャラクターにポーズをとらせ絵を描く（日常風景　例:歩く、走る）
	12	3Dモデルデッサン	制作した3Dモデルのキャラクターにポーズをとらせ絵を描く（自身のキャラクターの世界観にあったポージングで描く）
	13	まとめ	学習した内容の確認、まとめ
	14	発表	完成作品の発表、確認
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	アナログイラスト演習Ⅱ		指導担当者名	大坂　美智子
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	・コミックイラスト表現に使用する各種画材の使用方法をマスターする ・各種画材の特徴を活かした表現が出来るようになること ・各種画材で自分の望む表現ができるようになること			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	コピック、水彩色鉛筆、コットマンハーフパン他			
授業外学習の方法	提出課題の制作。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	授業説明・準備物確認・基礎技術の復習・コピック作品制作（春テーマ）
	2	画力確認	コピック完成と提出（春テーマ）・作品発表会・次回使用画材紹介パステル
	3	パステル	・パステルの基礎技術・作品制作・次回使用画材紹介色鉛筆・水彩色鉛筆
	4	色鉛筆・水彩色鉛筆	色鉛筆・水彩色鉛筆の基礎技術・作品制作・次回使用画材紹介W&N
	5	ウィンザー&ニュートン	W&Nの基礎技術・次回使用画材紹介ポスカ
	6	ポスカ	ポスカの基礎技術・作品制作・期末課題制作インフォメーション
	7	期末課題制作	画材特性を生かした作品制作（ラフ確認）
	8	期末課題制作	画材特性を生かした作品制作（中間確認・アドバイス）
	9	期末課題制作	画材特性を生かした作品制作（提出最終日）
	10	期末課題制作	作品発表会と振り返りアンケート
	11	課題回収	
	12	期末試験フィードバック	
	13	期末試験フィードバック	
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	アナログイラスト演習Ⅱ		指導担当者名	大坂　美智子
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	・コミックイラスト表現に使用する各種画材の使用方法をマスターする ・各種画材の特徴を活かした表現が出来るようになること ・各種画材で自分の望む表現ができるようになること			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	コピック、水彩色鉛筆、コットマンハーフパン他			
授業外学習の方法	提出課題の制作。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	オリエンテーション	授業説明、準備物確認　作品コンセプト・ラフ・使用画材確認
	2	作品制作	画材特性・陰影を意識したイラストのラフ制作
	3	作品制作	画材特性・陰影を意識したイラスト制作
	4	作品制作	画材特性・陰影を意識したイラスト完成・提出・発表会・次回作品「テーマイラスト
	5	作品制作	テーマイラストラフ制作（テーマ確認・テーマとイメージに合った画材選択）
	6	作品制作	テーマイラスト制作　（中間確認・アドバイス）
	7	作品制作	テーマイラスト制作（最終提出）
	8	期末課題	世界観が伝わる背景や雑貨、動植物を描いた作品制作（確認・使用画材確認）
	9	期末課題	世界観が伝わる背景や雑貨、動植物を描いた作品制作（確認・中間添削）
	10	期末課題	世界観が伝わる背景や雑貨、動植物を描いた作品制作（最終確認）
	11	課題確認	世界観が伝わる背景や雑貨、動植物を描いた作品制作（最終提出日）
	12	発表	期末課題の発表会と授業振り返りアンケート
	13	期末試験フィードバック	
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	色彩概論Ⅰ		指導担当者名	志村　早織	
実務経験				実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、マンガクリエイト科、コミックイラスト科、コミックマスター科、動画・映像クリエイト科、YouTuberクリエイト科　選択者		
授業方法	講義：◯	演習：	実習：	実技：	
時間数	56時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	色彩検定3級合格を目指す				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	色彩概論テキスト				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、簡単な実習
	2	確認テスト色番号	教科書、問題集PCCS
	3	確認テスト色のはたらきについて	教科書、問題集色のはたらき、色とイメージ
	4	確認テスト光と色	教科書、問題集色はなぜ見えるのか、目のしくみ
	5	確認テスト混色	教科書、問題集照明と色の見え方、加法混色、減法混色
	6	確認テスト色の分類と三属性	教科書、問題集色の三属性、等色相面
	7	確認テストPCCS色相	教科書、問題集色相、明度、彩度、トーンのイメージ
	8	確認テストトーン記号	教科書、問題集色相とトーンによる色の表示方法
	9	確認テスト慣用色名①	教科書、問題集慣用句名、暖色と寒色
	10	確認テスト色彩心理	教科書、問題集進出色と後退色、膨張色と収縮色
	11	確認テスト色対比と錯視	教科書、問題色対比、同化効果、色陰現象、色の錯視
	12	確認テスト色彩調和	教科書、問題集配色、色相から配色を考える
	13	確認テスト色彩効果	教科書、問題集配色技法、色彩と構成
	14	レポート作成	まとめ
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	色彩概論Ⅰ		指導担当者名	志村　早織	
実務経験				実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、マンガクリエイト科、コミックイラスト科、コミックマスター科、動画・映像クリエイト科、YouTuberクリエイト科　選択者		
授業方法	講義：◯	演習：	実習：	実技：	
時間数	56時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	色彩検定3級合格を目指す				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	色彩概論テキスト				
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする				

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	確認テスト授業説明	教科書、問題集
	2	確認テスト色彩と生活	教科書、問題集生活環境と色彩、生活環境とカラーコーディネーション
	3	確認テストファッションと色彩	教科書、問題集 ファッションとは、ファッションコーディネートにおける色彩、基本的な力
	4	確認テストインテリアと色彩	教科書、問題集 インテリアとは、住宅インテリアの色彩
	5	確認テストインテリアのカラーコーディネーシ	教科書、問題集 インテリアのカラーコーディネーション、インテリアにおける色の心理的
	6	確認テストコーポレートカラー	教科書、問題集 インテリアの配色、インテリアにおける色彩検討、コーポレートカラー
	7	確認テスト慣用色名②	教科書、問題集慣用句名説明
	8	確認テスト過去問題	2017夏解答と解説
	9	確認テスト過去問題	2017冬解答と解説
	10	確認テスト過去問題	2018夏解答と解説
	11	確認テスト過去問題	2018冬解答と解説
	12	確認テスト過去問題	2019夏解答と解説
	13	色彩検定２級についての説明	次年度概要説明
	14	レポート作成	まとめ
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	色彩概論Ⅱ		指導担当者名	大坂　美智子
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、マンガクリエイト科、コミックイラスト科、コミックマスター科、動画・映像クリエイト科、YouTuberクリエイト科　選択者	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	色彩検定2級合格のための学習 テキスト、問題集、過去の検定試験などで学習を進める。カラーカードを使用した実技を取り入れて、配色に関する知識を身に付けていく。前期１回・後期１回アンケート実施し。疑問質問に答える時間をつくり受験に対する不安を減らしてサポート合格を目指していく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	2級テキスト、3級テキスト、問題集、カラーカード等			
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、学習方法確認・3級振り返り・色彩動画観賞・次回準備
	2	確認テスト配色イメージ・色彩調和生活と色	教科書、問題集、豆テスト・トーン別色相環制作・配色イメージと色彩調和
	3	確認テスト配色イメージ・色彩調和生活と色	教科書、問題集・豆テスト・色彩調和
	4	確認テスト色彩調和・色のUD光と色	教科書、問題集・豆テスト・色彩調和と色のUD
	5	確認テスト色のUD・光と色	教科書、問題集・豆テスト・色のUDと光と色
	6	確認テスト光と色・マンセル表色系	教科書、問題集・豆テスト・光と色とマンセル表色系
	7	確認テストマンセル・色彩心理・ビジュアル	教科書、問題集・豆テスト・マンセル表色系と色彩心理とビジュアル
	8	確認テストビジュアル・ファッション	教科書、問題集・豆テスト・ビジュアルとファッション・テキスト前半部確認テストインフォメーション
	9	テキスト確認テストファッション・インテリア	・テキスト前半部確認テスト実施・教科書、問題集ファッションとインテリア・期末テストインフォメーション
	10	確認テスト・インテリア・景観	教科書、問題集　インテリア・景観色彩
	11	確認テスト景観	教科書、問題集景観色彩
	12	テキストまとめ	・テキストまとめ・アンケート実施・夏休み中の宿題インフォメーション
	13	前期期末試験	期末試験・インフォメーションとアンケート実施
	14	前期振り返り	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	色彩概論Ⅱ		指導担当者名	大坂　美智子
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	グラフィックデザイン科、グラフィックデザインマスター科、マンガクリエイト科、コミックイラスト科、コミックマスター科、動画・映像クリエイト科、YouTuberクリエイト科　選択者	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	色彩検定2級合格のための学習 テキスト、問題集、過去の検定試験などで学習を進める。カラーカードを使用した実技を取り入れて、配色に関する知識を身に付けていく。前期１回・後期１回アンケート実施し。疑問質問に答える時間をつくり受験に対する不安を減らしてサポート合格を目指していく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	2級テキスト、3級テキスト、問題集、カラーカード等			
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	宿題回収・テキスト振り返り	・夏休み課題提出日・教科書、問題集・過去問各章ごと実施と振り返り
	2	各章の過去問実施	教科書、問題集・過去問各章テスト実施と振り返り
	3	各章の過去問実施	教科書、問題集・過去問各章テスト・実施と振り返り
	4	各章の過去問実施	教科書、問題集過去問各章テスト実施・進捗確認アンケート実施・次回インフォメーション
	5	確認テスト過去問題	過去問実施（７０分）・試験対策勉強方法ポイント解説とテキスト振り返り
	6	確認テスト過去問題	過去問実施（７０分）・試験対策ポイント解説とテキスト振り返り
	7	確認テスト過去問題	過去問実施（７０分）・試験対策ポイント解説とテキスト振り返り
	8	確認テスト過去問題	2017夏解答と解説
	9	確認テスト過去問題	2017冬解答と解説
	10	確認テスト過去問題	2018夏解答と解説
	11	確認テスト過去問題	2018冬解答と解説
	12	確認テスト過去問題	2019夏解答と解説
	13	後期期末試験	期末試験・インフォメーションとアンケート実施
	14	後期振り返り	
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	作品制作演習Ⅱ		指導担当者名	山田　直美
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　希望者	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	各自の設定した目標に合わせたイラストの作成、添削 制作スケジュールを管理する能力の育成			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	各自制作内容に合わせて準備			
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	自己紹介、授業内容説明	自己紹介、授業内容説明
	2	企画書	企画の制作方法
	3	企画書	企画書制作 （流行のテーマから選んで）
	4	企画書	個別添削
	5	スケジュール計画	作品制作スケジュールを立てる
	6	確認	企画書確認
	7	作品制作	作品制作、個別添削
	8	作品制作	作品制作、個別添削
	9	作品制作	作品制作、個別添削
	10	確認	制作進捗確認
	11	作品制作	作品制作、個別添削
	12	作品制作	作品制作、個別添削
	13	確認	制作進捗確認
	14	作品制作	前期目標スケジュールまでの進捗確認
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

作品制作
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	作品制作演習Ⅱ		指導担当者名	山田　直美
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　希望者	
授業方法	講義：	演習：〇	実習：	実技：
時間数	56時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	各自の設定した目標に合わせたイラストの作成、添削 制作スケジュールを管理する能力の育成			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	各自制作内容に合わせて準備			
授業外学習の方法	授業内容の予習、復習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	オリエンテーション	企画書確認
	2	作品制作	作品制作、個別添削
	3	作品制作	作品制作、個別添削
	4	作品制作	作品制作、個別添削
	5	確認	制作進捗確認
	6	プレゼン確認	企画書で作ったプレゼン形式の確認
	7	作品制作	企業依頼を想定しての作品制作
	8	作品制作	企業依頼を想定しての作品制作
	9	作品制作	作品発表、添削
	10	作品制作	受験企業を想定した作品制作
	11	作品制作	受験企業を想定した作品制作
	12	作品制作	作品制作、個別添削
	13	発表	作品発表確認
	14	発表	作品発表確認
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	クロッキーデッサン実習Ⅱ		指導担当者名	丸山　悦代
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	基礎的な描写力の向上と観察力を重点的に養う。更に作品に対する向き合い方（集中力、執着心、リテイク、フィードバック）を学ばせ、今後の作品制作に活かせる姿勢を身に付けさせる。□			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	スケッチブック、画用紙、鉛筆・モチーフ等、デッサンの実習に必要と思われるもの全般			
授業外学習の方法	デッサンの練習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション・手のデッサン	各生徒の自己紹介や講師紹介、授業の一年の流れ等の説明。画材準備後、自らの手を描いてみる。
	2	幾何石膏体	モチーフを計測する。円柱や立方体等の石膏立体を描く。
	3	風景スケッチ	学校エリア内を散策し、スケッチする。
	4	静物①（マグカップ）	各自、マグカップを持参。単純な日用品を描く。
	5	静物②（野菜or果物）	各自、野菜か果物を1個持参。自然物を描く。
	6	静物③（お椀とお皿）	各自、円の構造体の日用品を描く。
	7	静物④（箱）	各自、500mℓの紙パックジュースを持参。ロゴ入りで描く。
	8	静物⑤（チョコレート）	各自、チョコレートを持参。ケースごと、ロゴ入りで描く。
	9	静物⑥（バッグ、リュック）	各自、自身のバッグもしくはリュックを描く。
	10	静物⑦(中身入りペットボトル）	各自、ペットボトルを持参。液体と固形をデッサンで表現する
	11	期末考査対象課題：自画像	喜・怒・哀・楽の中から表情をひとつ選び、自画像を描く。各自、鏡を持参する。2週連続の課題。
	12	期末考査対象課題：自画像	喜・怒・哀・楽の中から表情をひとつ選び、自画像を描く。各自、鏡を持参する。2週連続の課題。
	13	発表	作品発表
	14	まとめ	デッサン法の復習、まとめ
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	クロッキーデッサン実習Ⅱ		指導担当者名	丸山　悦代
実務経験				実務経験：
開講時期	通年　前期・後期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	基礎的な描写力の向上と観察力を重点的に養う。更に作品に対する向き合い方（集中力、執着心、リテイク、フィードバック）を学ばせ、今後の作品制作に活かせる姿勢を身に付けさせる。□			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点：優)、B(70点～79点：良)、C(60点～69点：可)、D(0点～59点：不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	スケッチブック、画用紙、鉛筆・モチーフ等、デッサンの実習に必要と思われるもの全般			
授業外学習の方法	デッサンの練習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	スプーンを持った手	前期デッサンの復習と振り返りをする。
	2	人物クロッキー①	クロッキーによって人体のプロポーションやポージングの確認をする。生徒が交代でモデルをする。
	3	人物クロッキー②	クロッキーによって人体のプロポーションやポージングの確認をする。生徒が交代でモデルをする。
	4	期末考査対象課題：自画像	喜・怒・哀・楽の中から表情をひとつ選び、自画像を描く。各自、鏡を持参する。3週連続の課題。
	5	期末考査対象課題：自画像	喜・怒・哀・楽の中から表情をひとつ選び、自画像を描く。各自、鏡を持参する。3週連続の課題。
	6	期末考査対象課題：自画像	喜・怒・哀・楽の中から表情をひとつ選び、自画像を描く。各自、鏡を持参する。3週連続の課題。
	7	期末考査対象課題：自画像	喜・怒・哀・楽の中から表情をひとつ選び、自画像を描く。各自、鏡を持参する。3週連続の課題。
	8	期末考査対象課題：自画像	作品発表
	9	発表	折り畳みの鏡と手袋を各自持参し、好きなように構成しデッサンする。2週連続の課題。
	10	期末考査対象課題：卓上静物①	折り畳みの鏡と手袋を各自持参し、好きなように構成しデッサンする。2週連続の課題。
	11	期末考査対象課題：卓上静物①	自宅にある静物を各自持参し、好きなように構成しデッサンする。2週連続の課題。
	12	期末考査対象課題：卓上静物②	自宅にある静物を各自持参し、好きなように構成しデッサンする。2週連続の課題。
	13	期末考査対象課題：卓上静物②	自宅にある静物を各自持参し、好きなように構成しデッサンする。3週連続の課題。
	14	発表	作品発表
	15	期末試験フィードバック	
	16	期末試験フィードバック	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	著作権概論		指導担当者名	矢田部　翔子
実務経験			実務経験：	
開講時期	前期	対象学科学年	コミックイラスト科、コミックマスター科　2年	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
時間数	28 時間	週時間数	1週/28時間	
学習到達目標	ビジネス著作権検定BASIC級の合格			
評価方法 評価基準	・出席率・模擬試験点数評価・授業態度・試験結果 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する			
使用教材	ビジネス著作権検定　ベーシックテキスト			
授業外学習の方法	テキストの復習等			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション/第1章　著作権とは何か	試験概要説明/著作権の性質・著作権法の目的
	2	第2章　著作権で保護されるもの①	著作権で保護されるもの
	3	第3章　著作権は誰が持つ	著作者の定義、著作者の例外、著作者と著作権者
	4	第4章　著作権の内容①	著作権の内容　人格権と財産権、著作者人格権（公表権、氏名表示権、同一性保持権、一身専属性）
	5	第4章　著作権の内容②	財産権としての著作権、複製権、上映権、演奏権、上演権
	6	第4章　著作権の内容③	公衆送信権、貸与権、譲渡権、頒布権、二次的著作物
	7	第5章　著作権はいつまで保護される	著作権の始期、著作権の保護期間、国際的保護
	8	第7章　勝手に使える場合がある①	権利制限規定、私的使用関係、付随的著作物
	9	第7章　勝手に使える場合がある②	教育関係、図書館関係、非営利無償の上演・演奏等、引用転載関係
	10	第8章　著作物を伝達する者を保護する制度①	著作隣接権とは
	11	第9章　勝手に使うとどうなるか	著作権の侵害
	12	第10章　著作権に関連する制度	知的財産権、情報モラルと著作権
	13	検定対策	模擬試験
	14	期末試験	検定本番
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施

授業計画（シラバス）

科目名	卒業制作		指導担当者名	山田　直美
実務経験			実務経験：	
開講時期	後期	対象学科学年	コミックイラスト科　2年	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	180時間	週時間数	6週/180時間	
学習到達目標	・卒業生：2年間の集大成として学んだことを発揮する			
評価方法 評価基準	・修了生：それぞれの学科の規定により定められた以上の分量、質で卒業生としての集大成となる作品制作をすること また、学科内で行われるプレゼンテーションにて完成品を発表し、卒業修了制作展で作品展示をすること 評価項目「作品の量」「作品の質」「完成度の高さ」「企画の質」「プレゼン能力」			
使用教材	それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			

学期	ターム（週）	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	作品制作開始	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても
			可視化していく
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
			学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く
			・制作のポイント　・展示計画　・プレゼン能力　・資料の見やすさ　など
	5	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備、
			また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作
	6	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施
			・学科内の作品の見どころの紹介　・一般来場者の対応
			*学科内シフトにより登校
			展示終了後は撤収と作品保管をする

履修上の留意点

・出席率が80％に満たない場合は、プレゼンテーション機会を与えない
・プレゼンテーションにて不合格だった場合、修正し、翌週期限を設け再プレゼンテーションを実施
そこで一定の評価があれば合格とする